

解答例

- (1) こちらが実際よりも気の利いたことを言ったかのように思わせる笑い方で
- (2) ウ
- (3) ア
- (4) かつてのリリーからの拒絶が心の中で完全には消化されておらず、棘のように無意識に残り続けていたから。(49 字)
- (5) ア
- (6) リリーに振られたことで主人公がエミと結ばれることができたということ。(34 字)
- (7) ウ
- (8) love
- (9) エ

解説

- (1) 下線部は **laughed** を修飾する副詞句であり、**that** は関係代名詞。"**in a way that made you feel you had said something more clever than you had**"の最後の **had** は代動詞であり **had said** の内容が含意されていることが伝わるように「わかりやすく」和訳できたかがポイント。「あなたが実際に言った以上に気の利いたことを言ったかのように感じさせるような（笑い方で）」が直訳。下線部だけでは「笑い方」が含まれないが、和訳として自然に通すために **laughed** を補って訳出するとよいだろう。
- (2) 正解はウ。直後の応答の "**It has**" の **has** が、空所(2)内容を受けた代動詞であるとわかれば、ここには現在完了形の内容が入ることがわかる。ア・エは **How's / It's nice** に対して "**It has**" では応答として成立せず、イは "**I didn't expect...**" に対する応答としても不自然。
- (3) 正解はア。空所直後の描写に注目しよう。"**I watch myself place my hand on the small of Emi's back, a gesture ... which now feels rehearsed, deliberate, as though I am presenting evidence**" とあり、主人公の振る舞いが「演技がかっている」ことが強調されている。アの "**a brightness that borders on performance**" 「芝居じみた明るさ」はこの描写と合致する。イ・ウは不安や真剣さを示すが、続く文脈の「証拠を提示するかのよう」にという自己演出の調子と合わない。エは素朴な喜びを表すが、主人公が喜んでいるという記述はない。
- (4) 設問は「主人公自身が考える理由」を問うていることに注意しよう。本文後半下線部(5)の後の部分に、その答えがある。それは "**the rejection never quite finished its work. It lodged itself somewhere, a splinter too small to see but large enough to feel when pressed**" 「あの拒絶が完全にそのつとめを果たしていなかったのだ。どこかに刺さったまま残っている。目には見えないほど小さいが、押せば感じる程度には大きい棘として」の部分である。すなわち、かつてのリリーからの拒絶が完全には消化しきれず、棘のように心のどこかに無意識のまま残り続けていたため、という趣旨でまとめればよい。

なお、下線部 "**Because why would I need to prove anything to Lily?**" には構文上の注意点が2つある。

第一に、文頭の **Because** である。通常 **because** は理由を表す従属節を導くが、ここでは直前の文 "**this strange and embarrassing pride ... makes me pause**" に対して「というの〜だから」と補足的に理由を述べる用法で、独立した文として用いられている。口語的・文学的な書き方であり、後ろに疑問文が続いている点もあわせて、受験英語ではあまり見慣れない形であったかもしれない。なお、この用法は、

あくまで特殊な効果を狙ったものであり、フォーマルな文章では使うべきではない。したがって、英作文などでは避けるのが無難であろう。

第二に、**would** である。この英文は「いったいなぜ～する必要があるというのか」を表す修辞疑問である。話者が「そんな必要があるはずがない」と感じていることを含意しており、だから事実とは違うという気持ちを込めるために、仮定法に近い使い方として **would** を用いていると考えるとよいだろう。同種の用法は次の文 "Why would I need her, of all people, to see that my life has turned out well?" にも連続して現れている。

- (5) 正解はア。verdict「判決，裁定」が比喩的に用いられている。"delivered long ago" と過去に下されたものであり，空所(X-2)を含む "with great kindness, let me understand that she did not love me back" がその具体的内容に当たる（ここについては(8)の解説も参照すること）。すなわち「リリーは主人公の気持ちにこたえられない」ということである。イは本文に根拠がない(本物の恋愛同様，根拠がないのに都合のよい解釈をすると，英文読解でも大事故となってしまう！)。ウは「思慕の念を見せることができない」と，やはり，リリー側に好意があるかのような含みがあり不適。エの「友人としてしか」という限定も本文にはない。
- (6) "the door she closed" はリリーが主人公の恋愛感情を受け入れなかったことの比喩である。そして，"opened another" はその結果として別の道が開けたことを意味する。もちろん，それは，エミと出会い結婚できたということである。したがって，解答は，リリーに拒絶されたからこそ主人公はエミと結ばれることができた，という趣旨でまとめればよい。
- (7) 正解はウ。直前の段落の "I do not need to convince myself of this. It is not an argument I must win. It is simply the truth." 「私はこのことを自分に納得させる必要がないのだ。これは勝たなければならない議論ではない。ただの事実だ。」が決定的な根拠となる。今の幸福が，自分を説得する必要もない単なる事実であると悟った結果，夢（＝過去の未消化の感情）を見ずに済んだ，ということなのである。アは「ようやく受け入れた」とあるが，下線部(5)の直後に，"Not because I want Lily — I do not, I am certain of this" 「リリーを求めているからではない——求めている，それは確かだ」とあるように，主人公は失恋自体をこの時まで受け入れられていなかったわけではない。ここでの気づきはそれより深い次元にある。イの「過去の恋は錯覚だった」は本文と矛盾する（主人公がかつての恋を否定するような記述はない）。エの「一切やめようと決意した」とは本文と合わない。主人公は，“自然と”今の幸福に気が付き，過去の恋愛に振り返る必要はないのだと気が付いたのである。
- (8) 正解は love。空所が 4 つあり，「同じ動詞が適当に活用された形で入る」という条件から，4 つの文脈すべてに矛盾なく当てはまる動詞を 1 つ特定する必要がある。

る。出発点として最も手がかりが多いのは"she did not (X-2) me back"である。ここで~back は「相手の行為に対して同じことを返す」という意味であり、動詞+人+back で「(人) に同じことをし返す」という形になる。この back と結びつき、かつ人を直接目的語にとれる動詞という条件がまず絞り込みの鍵となる。さらに直前の文脈で主人公は"the desperate seriousness of twenty-one"「21 歳の切実な真剣さ」をもって Lily に対してその行為をしたとあるから、21 歳の青年が切実に行い、相手が「し返す」ことを期待しうる行為、すなわち love が浮かび上がる。

これを 4 つの空所に当てはめると、以下のようにいずれも文意・文法ともに成立する。

X-1 "whom I had loved with the desperate seriousness of twenty-one"

(過去完了：大学時代の回想)

X-2 "she did not love me back" (原形：did not に続く)

X-3 "I love this woman" (現在形：妻エミへの現在の気持ち)

X-4 "If Lily had loved me back" (仮定法過去完了：反実仮想)

なお、同じ動詞 love が過去完了→原形→現在形→仮定法過去完了と異なる活用で現れることで、主人公の感情が「過去の恋→その拒絶→現在の愛→もしあの恋が実っていたら」という物語の時間軸と重なるようになっている点にも注目しよう。

- (9) 正解はエ。下線部(1)のある段落から、主人公は 20 年前に大学の講義室でリリーと同席しており、当時 21 歳であったことがわかる。よって現在は約 41 歳である。そして、目覚めた後の段落で、結婚後初めての冬のエピソードについて "even seven years on she still laughs"とある。したがって、結婚からおよそ 7 年が経過している。ゆえに、 $41-7=34$ でエが最も適当であることがわかる。